［第２回］学校運営協議会

と　き／平成３０年１０月２９日（月）１９：００～２１：００
ところ／南が丘小学校図書室

■報告事項

（１）平成３０年度「全国学力・学習状況調査」の結果および分析の報告

６年生を対象として４月１７日（火）に実施された見出しの調査について、小学校の担当者から報告があり、その後質疑を交わした。概要は、次のとおり。

○　昨年度に引き続き、全ての教科において津市、三重県、全国の平均正答率を上回っている。しかし、国語・算数ともにＢ問題では無解答者もおり、特に算数Ｂにおける記述式の２問の無回答率は１０．１％、１２．９％とやや高かった。

○　国語 AB ともに「書くこと」領域の正答率が全国平均を上回っている。
「記述式」で解答する問題の正答率は、昨年度に比べて下がっている。

○　算数では、AB ともに全国平均を上回っている。一方で、小数のわり算に関する問題では、正答率が低かった。また、記述問題は全国平均を上回っており、昨年度に比べて正答率が上がってきているものの、いくつか課題がみられた。

○　理科では、知識に関する問題では正答率が高かったが、それに比べると活用に関する問題の正答率が低かった。また、選択式の正答率に比べると記述問題にいくつか課題があった。

上の結果を受けて、今後次のような取り組みを進めていくことが説明された。

〈国語〉

昨年に引き続き、「書くこと」の指導を充実させる。複数の資料から、重要となる言葉や文を引用し、字数制限などの条件の下で書くことを指導していく。

〈算数〉

記述問題にいくつか課題がみられるため、言葉や式を用いて、自分の考えを友だちに説明したり、ノートに表したりする活動を繰り返し行っていく。また、内容理解とともに、説明のための用語、手順などを身につけさせ、本校児童の弱みにつながる学習単元を丁寧に指導していく。

〈理科〉

記述問題に課題があるため、実験結果から考察したことをノートに書いたり、グループで話し合ったりする活動を通して、表現する力をつけていくように指導していく。

〈全教科を通して〉

これまでと同様に、「めあて」と「振り返り」を意識した授業を行うとともに、「まとめ」「振り返り」まで見通した授業の展開をしていくようにする。

振り返りなどを活用して、「授業がわからない」児童を把握し、「わからない」といえる雰囲気、「わからないから教えて」という、児童の主体的な学びにつなげていく。

児童質問紙調査の結果（一部紹介）

肯定的回答が高かった項目や本校児童の強み	・自分には、よいところがある。　94.4% ・将来の目標や夢を持っている。　93.0% ・人の役に立つ人間になりたい。　97.9% ・学校の決まりを守っている。　90.9% ・いじめはどんな理由があってもいけない。　99.3%
肯定的回答が少なかった項目	・算数の授業の内容はよく分かる。　否定的回答１８人 ・理科の授業の内容はよく分かる。　否定的回答１２人 ・学校の授業以外にどれくらい勉強しているか　３０分以下２０人

（２）学校経営方針「８つの柱」の進捗について

本校では教育目標の実現をめざして、８つの重点取組を進めている。上半期のそれぞれの取組状況について学校長より報告され、その後質疑を交わした。

〇地域とともにある学校

ホームページや学校だよりなどを通して情報発信を行っている。また、学校支援委員会や関係諸団体に呼びかけ、充実した学習となるよう支援を得ている。

〇小中一貫教育

６つの推進部会や小中合同研修会などを通して、小中一貫教育を推進している。さらに、円滑な接続に向け、就学前教育・保育との交流も行っている。

〇英語教育

新学習指導要領を踏まえた授業の研究や指導計画の改善を図っている。次年度に向けては、HRT ・ALT・VET・英語専科による英語教育の指導実践を構築していく。

〇人権教育

人権感覚あふれる子どもの育成と仲間づくりに取り組んでいる。保護者、地域、保幼中ともに連携して取組を進めている。

〇特別支援教育

個別の指導計画の作成に向けた職員研修や、必要に応じて教育機関等との連携や教育相談を行っている。

〇生徒指導

児童会や生活委員会を中心として「生活のきまり」に関する働きかけをしている。特にあいさつについては課題が見られるため、今後あいさつの指標の提示が必要である。

〇健康安全教育

子どもが自分で身の安全を確保できる取組や給食を中心とした食教育を行っている。

■協議事項

（１）学校自己評価（めざす子どもの姿と達成状況評価シート）の中間報告について

本年度から、学校自己評価の在り方を抜本的に見直すことになった。「何にどう取り組んだのか」という取組の状況ではなく、「子どもたちがどのように変容したのか」という「子どもの姿」を評価の対象へ変更することにした。それにより、取組の成果や課題がより明確になり、学校運営の改善と発展につながることが期待されるためである。

教員の観察による評価と子どもたちへの質問紙調査の結果からは、「Ⅰ②　聴き合い伝える子」、「Ⅱ①　進んであいさつをする子」、「Ⅲ②　ものを大切にする子」の３点において、両者間の結果に大きな差があることが明らかとなった。教員と児童の間での双方のイメージを近づけるため、２学期からはめざす子どもの姿の具体的な評価規準を学年ごとに示し、両者の意識の隔たりが埋まるように取組を進めていく。

＜委員から出た意見＞

- 学校自己評価の在り方の見直しは学校運営の改善と発展につながる良い取組であり、次年度に向けて、引き続き取り組んでいってほしい。
- ３つの項目について、教員と児童の評価に差異がみられたのは、教員の評価基準が児童への質問に比べると厳しい評価であったこと、児童質問紙において具体的なめざす子どもの姿がイメージできなかったことが理由であると考えられる。
- 子どもたちの中には、それぞれの取組について得意なもの、苦手なものがあり、最も大事な取組について質問をするのもよいのではないか。
- めざす子どもの姿の取組を家庭においても実践できるように周知していけるとよい。
- 具体的な評価規準は、学年が進むにつれて段階的に示されていないのではないか。

→施行年であったため現在の子どもの姿から作成をした。来年度以降は本年度の結果を受けて、発達段階を考慮した学年別の評価規準を作成していく。

（2）支援のあり方について

　地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴い、学校運営協議会が学校の支援のあり方について協議する担うこととなった。南が丘学校支援委員会をはじめ、地域の諸団体による支援について協議された。

＜委員から出た意見＞

- 　南が丘小学校はコミュニティ・ネットをはじめ、学校への支援が充実している。また、それらの充実が地域づくりの礎となり、地域のつながりを実感することができている。

（3）その他

＜委員から出た意見＞

- 町づくりについて、自治会や社会福祉協議会、PTA など関係諸団体がまとまって地域づくりができるとよい。
- コミュニティ・ファンドに関わる委員より、英語教育に係る予算活用について意見が出された。学校からは、必要な予算であるかどうかを十分精査し、さらに充実した英語教育となるように有効活用していく旨の答弁があった。

以上